

市場化テスト（民間競争入札）で充実した事業を

総務省 官民競争入札等監理委員会事務局

各省庁機関や独立行政法人では約370事業で「市場化テスト（民間競争入札）」による経費の節減などを実現しています。

国立大学法人も「市場化テスト（民間競争入札）」の実施対象です。

事業分野名	国の行政機関・独立行政法人等名	市場化テスト前 (1年間あたり※)	市場化テスト後 (1年間あたり)	年間削減率	年間削減額	左記の算出の比較対象年度（一部で年度の途中の場合もある。Hは平成）	
						市場化テスト実施前	市場化テスト実施後（2期目以降の場合あり）
施設管理(注)	水産大学校	約2,320万円	約2,120万円	約8.5%	約200万円	H22	H24~26
	国土交通大学校（本校）	約6,546万円	約4,732万円	約22.3%	約1,800万円	H20	H25,26
	警察大学校	約4億8,800万円	約3億3,600万円	約31.2%	約1億5,200万円	H20	H24, 25
	税務大学校（和光校舎）	約2億2,100万円	約1億5,700万円	約29.2%	約6,400万円	H20	H24, 25
	自衛隊中央病院（防衛省三宿地区）	約3億1,000万円	約3億500万円	約1.6%	約500万円	H19~22	H26~28
留学生等外国人宿舎等管理	国際交流基金関西国際センター	約1億400万円	約7,600万円	約26.9%	約2,800万円	H23	H24, 25
	国際交流基金日本語国際センター	約9,300万円	約7,200万円	約22.8%	約2,100万円	H22	H27~29
	日本学生支援機構広島国際交流会館	約2,700万円	約2,230万円	約17.6%	約470万円	H18	H20, 21
情報システム管理	国際協力機構	約6,500万円	約4,100万円	約20%	約2,400万円	H20	H27,28
	駐留軍労働者労務管理機構	約4,400万円	約2,400万円	約44.4%	約2,000万円	H20, 21	H23~27
	国立科学博物館	約3,940万円	約3,240万円	約17.7%	約700万円	H22~26	H26~30
	酒類総合研究所	約1,160万円	約960万円	約15%	約190万円	H25~27	H28~30
	労働政策研究・研修機構	約1,990万円	約1,820万円	約8.4%	約170万円	H27	H28~30
図書館管理	日本貿易振興機構アジア経済研究所	約4,820万円	約3,890万円	約19.4%	約940万円	H21	H27
物品共同調達	国立病院機構（※2年間）	約2億4700万円※	約1億6,900万円※	約31.5%	約7,800万円※	H22（一部24）	H25, 26

（それぞれ国の行政機関・独立行政法人等の事業評価（実施状況）より）

（注）施設管理（設備管理・保守、警備、清掃など）の業務を一括（包括化）して、複数年度化し入札、契約を実施した国の行政機関・独立行政法人等の経費節減の結果の例。国立大学（附属病院を含む。）の形態に比較的類似している施設としたが、国土交通大学校と警察大学校は研修施設の性格が強い。

1. 市場化テスト(民間競争入札)とは？

国(独法など含む。)が直接行う特定の公共サービスを、民間事業者と競争(市場化)し、有識者が判定することから始まりました。



現在全てが民間業者同士の競争入札案件になっています。大学独自の入札と異なる点は、入札前などに外部からの助言やチェックを受けられることです。



学内関係者だけでは、業務の見える化、1者応札、単年度、業務の分割・統合といった競争性改善の取組、見直す点がよく分からないことが有り得ます。

要項(仕様書)案を提出し有識者による第三者委員会(監理委員会)の助言やチェックを受けます。

委員会出席は、最初と評価、各1回(原則)です。



委員会前に、事務局で指針や過去の例などから、アドバイスさせていただきます。



2-1 施設マネジメントへの取組の一環に。

今までの約370事業・業務の国の市場化テスト（民間競争入札）の多くは、「設備点検保守」「警備」「清掃」などの複数年度化や包括・分割をどう取り組んだか、どのような効果があったかを確かめるもの、です。



これらの取組は、施設マネジメントへの取組と考えられます。

複数年度化、包括・分割などを既に実施済みでも、あるいは単独業務でも、それが十分なものかどうか、市場化テスト（民間競争入札）で確かめることもできます。



施設マネジメントの取組の一環としていかがでしょうか。



市場化テストを行うことだけ決めて、契約更新期（たとえば2～3年後）に本格実施も可能です。

2-2 情報システム運用・管理の見直しに。

今までの約370事業・業務の市場化テスト（民間競争入札）の中には、「情報システム運用・管理」などもあります。

ユーザー側の要望と経費のバランスの取れた入札となるよう有識者委員会（IT専門家を含む。）に見ていただけます。



たとえば情報セキュリティ機能を強化した一方、契約額を下げた例もあります。

情報システム見直しの一環としていかがでしょうか。



市場化テストを行うことだけ決めて、契約更新期（たとえば2～3年後）に本格実施も可能です。

3. 市場化テスト(民間競争入札)で4つの効果

事業や業務をあらためて見直すきっかけになります。

経費や労力を大学の他分野へ回すことが図れます。

「経費の抑制」「施設マネジメント」「情報システム」の取組・効果が実績になります。

事業者の意識や意欲を喚起し、サービスの質向上で学生・教職員の勉学、生活、仕事の能率向上につながります。

さまざま事例は総務省ホームページの「市場化テスト」「官民競争入札等監理委員会(※)」のサイト(

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/gyoukan/kanri/koukyo_service_kaikaku/ji_gyou/ichiran.html)で、見るすることができます。

■お問い合わせ・ご連絡は、kokudai@soumu.go.jp へご遠慮なくどうぞ。

電話03-5501-2005 FAX03-3508-2801

官民競争入札等監理委員会事務局・公共サービス改革推進室 国立大学法人担当

(文部科学省の併任者もおります。)

※ 官民競争入札等監理委員会の「等」は「・民間競争入札」という意味が内包されています。官民競争入札・民間競争入札監理委員会ということになります。名称が長いので「等」になっています。